

桂高校国際姉妹校派遣団

見て 触れて 感じた

アメリカ

座談会

新しい出会い

昭和五十八年、都留市はアメリカネシー州ヘンダーソンビル市と姉妹都市の提携を結びました。以来、様々な交流の中でお互いの友情の絆を深めてきました。そして八年の歳月を経た今年、また新しい交流がスタートしました。昨年四月、都留市から公式訪問団がヘンダーソンビル市を訪れた際、桂高校は地元ビーチ高校、ヘンダーソンビル高校の二校と姉妹校の提携を行い、相互派遣などを含めた交流を約束しました。

今年三月その第一段階として桂高校の一行二十二名が海を超え、姉妹校で授業に参加するなど、同世代の若者と親睦を深めてきました。来年七月にはヘンダーソンビル市の両校から代表団が都留市を訪れる予定です。

高校生が見て、触れて、感じた真のアメリカを彼らの言葉を通してご紹介し



澤田 初めに、アメリカへ行ってみたいと思った動機はなんですか。

向山 自分の学んできた英語を実際ためしてみたいのが一番の理由です。

矢野 日本以外のところで生活してみるのが夢でした。

熊谷 アメリカの学校へ行けるなんてチャンスは二度とないものね。

西 僕も自分が今まで英語を学んできて、文法とかではなくて話せる力がどの程度身についたのか確かめたかった。

澤田 実際、行ってみて日本の高校とは違うなと思った点は何ですか。

西 日本と全然授業の雰囲気も違うし、僕の参加した授業では日本みたいに講義もあまりしなかった。生徒はわからない事があれば先生に直接質問するし、自分から進んで勉強に取り組んでいる姿勢が伝わってきました。

渡辺 日本みたいに規則は厳しくないけれど、チャイムが鳴ったらみんな時間どおりに席につき、先生に言われなくてもやるべきことはやっているなという感じでした。

熊谷 アメリカでは日本と違ってクラス単位で授業をしないで、自分の好きな先生のところへ行って授業を受けるので、すごく一日が経つのが早かった。それと先生と生徒の関係が日本ほど上下の差が無いみたいで、生徒が何でも先生に話ができるような感じでした。

澤田 私も演劇の授業に参加した時、先生が一定の生徒の質問に答えるだけで一時間が終わってしまっただけで「これで授業が成り立つのかな」なんて心配になったのも事実です。

高尾 私たちが参加した世界史の授業では、先生が日本の歴史を知っていて、足利氏とか徳川氏などの話をしていました。それと、とても日本に対する興味があるように「日本では何歳から車の免許証が取れるのか」などいろいろ質問をされました。中には、一時間先生がずっと講義していた授業もありましたよ。

澤田 そういう授業もあるんだ。私が参加した授業の中にも生徒が

八人程で、みんなそれぞれが違うことをやっている授業がありました。生徒の良い面をちゃんと伸ばしてやっているんですよ。



渡辺純子さん

中村友紀さん

西 秀樹君